

災害対策マニュアル

患者さん用

— 災害に備えて —

2015.2.10

特定医療法人五仁会

元町 HD クリニック

本マニュアルの活用にあたって

1995年の阪神・淡路大震災において、当院は甚大な被害を受けました。建物や設備類の損壊だけでなく、情報も患者さん・職員に十分伝えることができず、大変不安な思いをさせてしまいました。

これらの被害は、天災でありながら人災の部分もあったことは否定できず、事前の災害対策の重要性を実感しました。

そこで、当院では「災害に強いクリニック」を目指して、災害事前対策を講じ、また情報伝達手段についても整備し、これらをマニュアルとしてまとめました。

このマニュアルが患者の皆様にとって、災害発生時に安全に効率よく対応できる一助になれば幸いです。

平時の準備

以下について事前に確認してください。

- ① ご自身が透析治療を受けている施設名や治療状況(週に何回通院しているか)など、家族または知人に伝えておく。
- ② 自宅が被災した場合、避難するところ(指定避難所)の所在地を確認しておく。
- ③ ご自身で通信手段(固定電話・携帯電話等)での連絡ができない方は、できれば家族や知人に代理をお願いする。
- ④ 緊急時持ち出し物品として、以下のものを準備しておく
 - ・ クリニック発行の透析情報シート
 - ・ 特定疾病受領証(コピー)
 - ・ 身体障害者手帳(コピー)
 - ・ 必要な内服薬(3日分程度)

以下、任意

- ・ 携帯電話
- ・ 保険証
- ・ 現金・貴重品

透析中の対応

災害発生時、最も怖いのは、パニックに陥ることです。特に治療中で避難の緊急度の高い場合、緊急離脱等はスタッフがおこなうので、あわてずに落ち着いてスタッフの指示に従ってください。

1. 地震が発生した場合

緊急地震速報（各透析室に備え付けています。）が発報すれば、事前にスタッフがその旨を呼び掛けます。ベッド柵をつかみ、ベッドから振り落とされないようにし、血液回路は抜針しないようにしっかりと握っておいてください。緊急地震速報が発報しない場合でも、揺れ始めれば即座にベッド柵をつかんで、血液回路も同様にしっかりと握ってください。

蛍光灯などの落下物から身を守るために、布団や毛布を頭からかぶってください。

履物は底にある程度厚みがあり、脱げにくいものを普段から着用してください。

※ 独歩での避難が困難な方は、避難チェアで避難していただくことがあります。

2. 火災が発生した場合

スタッフが緊急度を決めますので、その指示に従ってください。

最も緊急度の高い場合は、血液を返血しないまま緊急離脱を行います。

緊急離脱はスタッフが順次行いますので、あわてて自分で抜針などしないように落ち着いて行動してください。

避難にあたっては、介助の必要な方はスタッフが誘導します。その他の方は避難経路を状況に応じてお知らせしますが、クリニックのどこに避難経路があるか、普段から確認しておいてください。ビル内の避難経路はエレベーター前の階段か、東側の外部階段です。エレベーターは通常使えないので、その旨ご周知ください。

3. 停電が発生した場合

停電になると装置は停止しますが、バッテリーを備えているので血液ポンプだけは作動します。

その間に停電の状況をスタッフが調査しますので、そのあと停電が復帰しない場合は回収します。この場合もあわてずにスタッフの指示に従ってください。

緊急離脱が必要になる場合：多くが火災時に必要になることが多いと思われませんが、そのほかにも建物の崩壊や、場合によっては津波が考えられます。それ以外の状況では逆に動かないほうが安全であると言えます。

4. クリニックから避難する場所について

<一時避難場所>

火災などによる一時避難場所は、ビル玄関前向い側のバス停広場とします。

<指定収容避難所>

- ・ 神戸生田中学校（所在地：北長狭通 4-10-1、電話番号：078-334-1850）

クリニックからの避難のしやすさや災害の状況によっては、そのほかの避難所に避難する方が望ましい場合もあります。

<広域避難場所>

- ・ 東遊園地(所在地：中央区加納町 6-4)
- ・ メリケンパーク(所在地：中央区波止場町 2)

広域避難場所は、地震などで大規模な火災が発生した場合などに、熱や煙などから身を守るために避難する広い屋外空間です。

災害発生時の連絡方法(自宅等、院外におられる場合)

災害発生当初は、電話だけでなく、メールやインターネットも回線が輻輳(ふくそう)してつながらない可能性が高くなります。

元町 HD クリニックでは、連絡手段として複数の連絡方法(図中)を考えており、その中でも、災害伝言ダイヤル「171」及び携帯メールを連絡手段の柱としています。(毎月1日に情報伝達訓練を行っています。)

ご自身が被災した場合もしくはクリニックが被災した可能性がある状況のときは、下記の連絡手段を使ってクリニックまで連絡してください。

クリニックからは災害優先電話を用いて、できる限り各患者さんにクリニックの被災状況および今後の治療予定をお知らせします。(この電話はクリニックからの発信専用です。)

患者さんからクリニックへの連絡手段

- 1) 一般回線電話
078-321-6800 (代表)
078-322-2937 (公衆電話)
- 2) 携帯電話
090-3033-3974 (申)
080-5312-4983 (森上)
- 3) インターネットホームページ掲示板

<http://www.motomachihd.com/>

メールアドレス

申 : XLA01314@nifty.ne.jp
森 上 : morigami-ce@motomachihd.com
清 水 : yshimizu@motomachihd.com

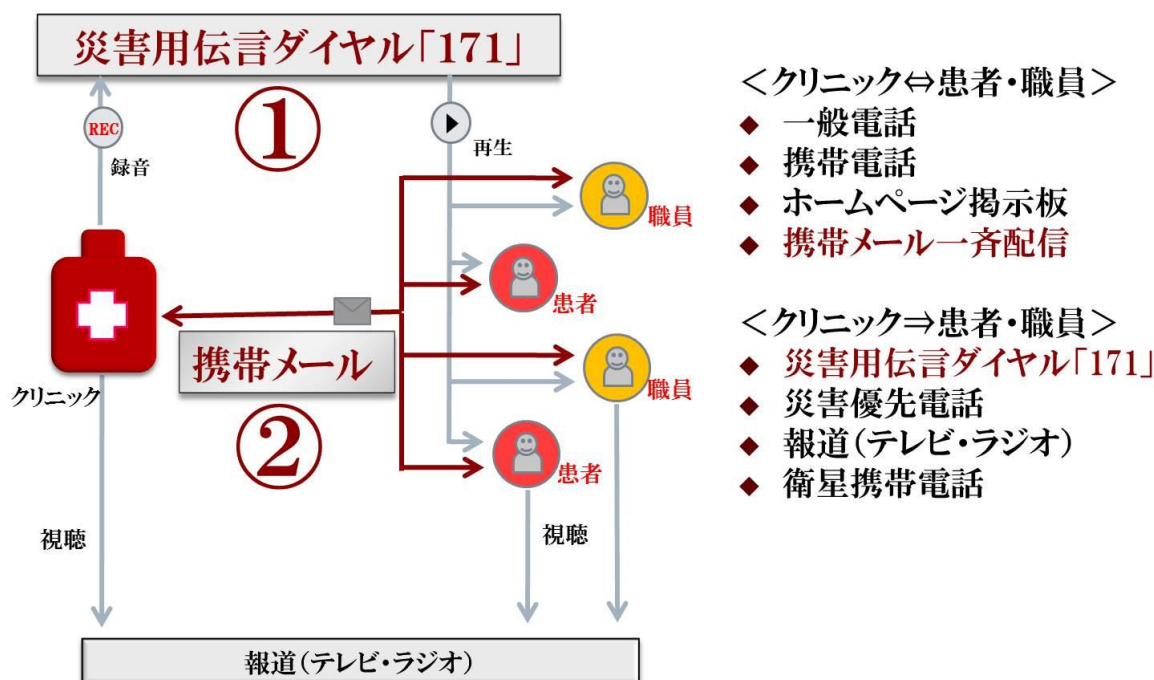


図 災害発生時連絡系統図

災害発生時の連絡系統図を上を示します。

災害発生当初は、災害の規模にもよりますが、電話回線が輻輳(ふくそう)してつながらない可能性が非常に高くなります。しかし、電話(携帯電話も含めて)はもともと身近にあるものなので、まず電話による連絡を試みてください。

電話がつかない場合は、以下の方法を用いていただきます。それぞれの連絡方法の使い方を以下に示します。

1. 災害発生時の連絡方法の2本柱(図参照)

① Eメール(携帯電話・パソコン) <クリニック⇄患者・職員>

クリニックからの情報を職員・患者の皆様へ伝える手段と、皆様からクリニックへ情報を伝える手段の双方向の連絡方法として用います。

Eメールも電話と同じように回線が込み合っていればつながりにくくなりますが、電話とは違いかけ直すことなく、時間差(状況によって異なりますが)をもって送信できる仕組みになっています。

② NTTの災害用伝言ダイヤル「171」 <クリニック⇒患者・職員>

これは、クリニックの状況を皆様にお知らせするためだけの手段です。震度6弱以上の地震発生時など、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。

クリニックの担当者がクリニックの状況や今後の治療予定を録音しますので、皆様は「再生」してクリニックからの伝言をお聞きください。（「録音」もできますが、情報登録件数に制限があるため、皆様は、録音はせずに再生のみでお願いいたします。）

情報の更新は**随時おこないます**。ただし、これも確実につながるというわけではありません。他の通信方法よりも高い確率でつながりますが、絶対ではないということを理解しておいてください。

（災害用伝言ダイヤルの利用方法等、詳細は巻末をご参照ください。）

2. その他の連絡方法

① 災害優先電話・衛星携帯電話＜クリニック⇒患者・職員＞

どちらもクリニックからの発信専用です。これらの電話を用い、クリニックから必要に応じて連絡していきます。

② ホームページ掲示板＜クリニック⇄患者・職員＞

双方向の連絡が可能ですが、緊急性が低いため、電話・メール等を優先してご利用下さい。

③ 報道（テレビ・ラジオ）＜クリニック⇒患者・職員＞

他の連絡手段でつながらない時に、テレビ・ラジオを通じてクリニックの情報を流すことがあります。

N T T 災害用伝言ダイヤル

「災害用伝言ダイヤル」は、大規模な災害が発生した際に、被災地域との「声の伝言板」の役割を果たすシステムです。クリニックの被災状況等、情報を聞くことができます。

以下に利用方法を示します。

伝言の再生方法

1 7 1 にダイヤルします。

ガイダンスが流れます。

再生するので **2** を選択します。

ガイダンスが流れます。

0 7 8—**3 2 1**—**6 8 0 0**

をダイヤルします。

元町HDクリニック職員が情報を伝えます。

災害発生時、利用開始から随時情報を録音しますので、クリニック外におられる患者さんは適時再生してください。